

国際高等教育院国際教育プログラム対象科目 「Interdisciplinary Sciences-E2 :Global Changes」を実施

国際高等教育院では、学士課程の留学生受入れプログラムである Kyoto iUP の留学生との共修や英語による科目の履修、海外留学経験を通して、真の国際性を涵養するための「国際高等教育院国際教育プログラム」を2022年度より実施しています。

2022年度後期には、プログラムに参加する学生と Kyoto iUP の留学生と一緒に学ぶ全学共通科目「Interdisciplinary Sciences-E2 :Global Changes」を開講しました。授業では、人類共通の課題である地球規模の気候変動問題等を題材とし、小グループに分かれて、英語でディスカッションやプレゼンテーションを行いました。国籍や育った環境が異なる中、多様な価値観を持つ学生同士が積極的に意見を交わし、

互いを尊重し理解しながら議論を進めていく姿で、教室は熱気に溢れていました。この協働科目への参加は、日本人学生には海外留学への大きなモチベーションに、また Kyoto iUP の留学生には、日本人学生のコミュニティに入るきっかけにもなりました。引き続き、留学生と日本人学生とが相互に刺激を与え合える交流の場の充実を図って参ります。



「海外渡航安全説明会」を実施

本学学生に様々な海外留学情報を届ける「留学のススメ」の一環として、7月13日に「海外渡航安全説明会」をオンラインで実施しました。

説明会では、海外留学における様々な健康管理と安全対策や海外で実際に起きた事例をもとに起こりうるトラブルとその対策について、講義がありました。

本学の留学プログラムに参加を予定している学生を中心に、125名の参加者が海外留学に臨むための正しい知識や情報収集の大切さを学ぶとともに、海外での健康と安全に関する意識を高めました。

なお、当日参加できなかった学生向けに、コンテンツ配布サービス kubar にて録画版を提供しています。



News Letter

このニュースレターでは、大学院教育支援機構、国際高等教育院、国際・共通教育推進部に関する情報をお届けしていきます。

台湾におけるリクルーティング活動の強化

大学院教育支援機構では海外の優秀な学生の獲得を目指し、リクルート活動を展開しております。機構の留学生受入れ戦略における重点地域の一つである台湾における交流を強化すべく、6月15日～17日にかけて教職員6名が台湾に渡航し、台湾で活躍する本学出身者らとの意見交換や、本学の戦略的パートナーシップ校である国立台湾大学の訪問、日本の対台湾窓口機関である公益財団法人日本台湾交流協会の訪問を行いました。

邦人同窓会である台湾吉田会と、本学への留学経験者から成る台湾京都大学同窓会との2つの同窓会を訪れ、台湾における留学事情、日本留学のニーズ、留学の障壁等について意見交換を行いました。両同窓会との交流はコロナ禍を経て4年ぶりとなりましたが、今後の継続的な協力を約束し、海外で行うリクルート活動における現地同窓生らの協力の重要性を改めて認識しました。

国立台湾大学の訪問では、文学院の教員と意見交換を行い、これ

まで情報が乏しかった文系学生の日本留学のニーズや、台湾における文系分野での博士号取得の意義について調査を行いました。

また、年内には台湾教育省と本学との博士学生向け共同奨学金の新設を予定しており、公益財団法人日本台湾交流協会を訪問した際には、共同奨学金プログラムに関する情報交換や、12月に予定している共同奨学金設立記念式典に向けた調整を行いました。



国際教育支援

2023 Amgen Scholars Program (アムジェン・スカラーズ・プログラム)

世界最大の独立バイオテクノロジー企業であるアムジェン社が設立した財団の支援を受けて、6月から2か月間にわたりサマリアサーチプログラムを実施しています。

理系分野の学部生を対象とし、プログラム参加大学・研究機関において最先端の研究に触れる機会と、次世代を担う科学者となる足がかりを提供することを目的としています。ハーバード大学やケンブリッジ大学をはじめとする世界有数の大学・研究機関が受入先として参加しており、日本では本学と東京大学が実施しています。

2023年度は、全世界から407名の出願があり、本学では23名の学生(スタンフォード大学、シンガポール国立大学、南洋理工大学、シドニー大学等)が11部局(医学研究科、

工学研究科、農学研究科、エネルギー科学研究科、生命科学研究所、総合生存学館、化学研究所、エネルギー理工学研究所、医生物学研究所、iPS細胞研究所、iCeMS)、22の研究室で活動しています。

参加学生には、毎日の研究活動に加え、日本語レッスンや日本文化体験、他研究室を見学して本学の最新の機器や研究手法に触れる機会が提供されます。終盤の成果発表会およびアジアシンポジウムに向けて、本学の教員等の研究指導を受けながら研究成果をまとめ上げてプレゼンに挑みます。

また、本学大学院への進学意欲を喚起するため、アドミッション支援室(AAO)による進学説明も実施し、多くの学生が参加し熱心に耳を傾けました。



国際教育支援

留学生支援課情報発信チーム(KUISIT)が公式SNSでの留学生向け情報発信を開始

このたび、留学生支援課情報発信チーム(KUISIT: Kyoto University International Student Information Team)が発足し、チーム公式のInstagram、Twitter、YouTubeを開発いたしました。京都大学の留学生生活支援に関する情報等を発信することを通じ、生活の充実および向上に資することを目的としています。在学留学生が必要かつ重要な情報に確実にアクセスできるよう、KULASISへ掲載された重要情報のリマインドや、留学生支援課が主体となって開催する講習会、イベント等のお知らせを発信していきます。

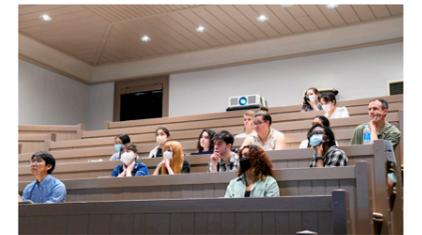


国際教育支援

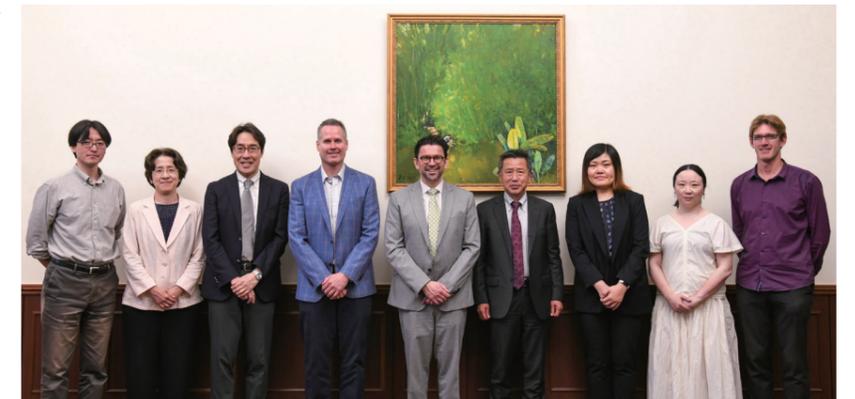
留学生のリクルーティング

海外の協定大学との協力強化

アメリカのメリーランド大学から、日本の文化と建築がテーマのサマープログラムの一環として、最先端の研究に触れることを目的に、12名の学部生が5月29日に本学を訪れました。冒頭、河合淳子国際高等教育院教授が自身のアメリカ留学のエピソードも交えて歓迎の挨拶を行いました。その後は京都大学の概要と交換留学やサマープログラム、大学院留学といった本学への留学の機会を紹介し、続く質疑応答の時間では、留学生活や本学で学ぶことのできる内容に関して多くの質問があがり、高い関心が伺えました。このほか参加学生らは、留学生ラウンジ「さずな」や時計台の見学、地球環境学堂での講義など、多様な体験活動を行いました。



6月26日にはオーストラリアのメルボルン大学から、国際担当の教授ら3名が本学を訪れ、学生交流や研究交流促進に向けて、河野泰之国際戦略本部長らと意見交換を行いました。メルボルン大学ではAdvancing Melbourneという戦略の元、大学の国際化に注力しており、日本での重要なパートナーとして本学との交流をより活発にしていきたいという意向があり、学生交流・研究交流ともに、個別のプログラム単位での具体的な意見交換が行われ、濃密な時間となりました。



国際教育支援

2023年度夏季 アジア未来リーダー育成奨学金プログラム(AFLSP) 成果報告会を開催

7月23日に、アジア未来リーダー育成奨学金プログラム(Asian Future Leaders Scholarship Program、以下AFLSP)の第8回目となる、2023年度夏季成果報告会を開催いたしました。

平島崇男 大学院教育支援機構長の挨拶に続いて、5名の奨学生と研究テーマごとに分かれた3つのチームより、研究成果や社会貢献などについて発表があり、優れた取り組みおよび発表を行った奨学生とチームに対し表彰を行いました。

AFLSPは本学が参加してから10年目を迎え、今後の奨学生たちの活躍がますます期待されます。

